

樺台春秋 異常気象と季節感

ゴルフシーズンはいよいよ終盤戦を迎えている。11月15、16日は樺台カントリークラブの最後のイベントであるラストコール杯を開催。幸いにも天候に恵まれ、多くのプレーヤーがラウンドを楽しんだ▼それにしても、あの暑かった夏の日には遠い過去のことと思われるほど、一気に季節は移ろい冬に入った。柔らかな秋の日差しを受けながら、ゆっくりとラウンドしてもらいたいと思っていたが、そんな日は数えるほどしかなかったように感じる▼季節の二季化が進んでいると言われている。春と秋が短くなり、夏と冬が長期化しているとの指摘である。特に夏が長くなったことは間違いないだろう。秋田だけでなく、日本全国で真夏日、猛暑日が続く、大雨に見舞われることも多々あった。地球温暖化の影響であろう▼春先の土日曜日は雨にたたられ、キャンセルが相次ぎ、雨が落ち着いたと思ったら、すぐに夏本番となり、猛暑が続く、炎天下でのラウンドに二の足を踏むプレーヤーが多かった。そして秋を通り越してあっという間に冬となってしまった。まさに異常気象に振り回されたシーズンであった▼そんな中であっても、ゴルフ場のコンディションは、管理スタッフの努力もあり、例年以上の仕上がりとなったことには胸を張れる。フェアウェイはもちろんのことだが、特にグリーンはこれまでにない速さとなり。プレーヤーからは「早すぎる」との悲鳴も聞かれたが、多くの方々からは「面白くなった」と高評価をいただいたことはうれしい限りである▼異常気象はこれからますます進むと考えられている。ゴルフ場の運営は天候頼みのところが大きい、それでも出来得る限りの努力をして、これからもプレーヤーを迎えたい。皆さまの変わらぬご愛顧をよろしくお願いいたします。最後にこのコラムのタイトルは「樺台春秋」であるが、季節の変化とともに「樺台夏冬」と変わるようなことが起きないことを切に願うばかりである。